

令和5年度 第1回

逗子市子ども・子育て会議

会議録

令和5年5月11日開催

令和5年度 第1回逗子市子ども・子育て会議 会議録

1 日 時 令和5年5月11日(木) 9時30分 から

2 開催場所 体験学習施設スマイル アトリエ

3 出席者

【委員（名簿順）】 豊田委員、横山委員、清水委員、市川（悟）委員、小関委員、渡部委員、

市川（由）委員、渡邊委員、森委員、横地委員、寶川委員、新納委員、小野委員

以上13名

【事務局】 福井教育部担当部長（子育て担当）（教育部次長（子育て担当）事務取扱）

子育て支援課 中川担当課長（青少年育成担当）、鈴木係長、佐藤専任主査、

稲垣主事 保育課 市川課長、梶山副主幹

4 欠席者 柴田委員

5 開催形態 公開（傍聴者1名あり）

6 報 告 子ども・子育て支援施策の実績報告書（令和4年度分）について

7 議 題 （1） 逗子市子ども・子育て支援事業計画事業進行管理に関する意見聴取等について

① 逗子市子ども・子育て支援事業計画事業進行管理表

② 逗子市子ども・子育て支援事業計画（個別計画信仰管理総括表2）

③ 逗子市子ども・子育て支援事業計画（個別計画信仰管理総括表1）

（2） 令和5年度子ども・子育て会議年間スケジュールについて

（3） その他

8 配布資料（当日配付） 会議次第・名簿・席次表・令和5年度スケジュール（案）

JR 東逗子駅前用地活用事業基本構想

【差し替え資料】資料1・個別計画進行管理総括表1・個別計画進行管理総括表2

（事前配付）① 子ども・子育て支援施策の実績報告書 資料1 ※当日差し替え有

② 個別計画進行管理総括表1 ※当日差し替え有

③ 個別計画進行管理総括表2 ※当日差し替え有

④ 事業進行管理表 ⑤ 評価ランクの基準 資料2～資料2-3

⑥ 意見表1-3 ⑦ 事業進行管理表の意見提案の視点 資料3

⑧ 資料 令和5年度第1回「逗子市子ども・子育て会議」について

⑨ 逗子市子ども・子育て支援施策の実績報告書（令和4年度）意見・質問票

9 議事概要

- 開会**
- ・ 委員 13 名が出席。「逗子市子ども・子育て会議条例」第 5 条第 2 項の規定に基づき、会議が成立していることを報告。
 - ・ 新任委員の自己紹介。
 - ・ 事務局の自己紹介。
 - ・ 同条例第 5 条第 1 項の規定に基づき、会長を議長とする。
 - ・ 傍聴者 1 名入場。
 - ・ 会議録署名委員 会長、3 番清水委員、10 番横地委員

【報告】子ども・子育て支援施策の実績報告書（令和 4 年度分）について

【寶川議長】

事務局より説明願う。

当日差し替え資料、子ども・子育て支援施策の実績報告書資料 1 を基に事務局より説明。（説明省略）

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。

【市川（悟）委員】

P.3 の令和 4 年度実績数値の過不足分に「-35」とあり、全体でも令和 3 年度に比べ児童人口数は減っている。また、P.4 に「企業主導型保育施設は…計画値より増加している。」とある。にもかかわらず、P.4 のとおり「待機児童数 13 人」が発生してしまうということか。

【事務局（市川保育課長）】

P.3 の表は保育量として確保できている量を示している。ご質問のあった、足りているのになぜ 13 人の待機児童が発生しているのかという点の大きな要因は、保育を希望する児童の年齢と、保育所で受け入れ可能な年齢の人数のマッチングができないことである。例えば 1・2 歳児でトータルで 100 人受け入れ可能なところに、130 人の希望者がいた場合、他の年齢で空きがあったとしても受け入れることができないため待機となる。また、希望する保育園に入園できずお断りするケースがあり、それもひとつ要因と考えられる。

【市川（悟）委員】

ゼロが一番いいのだろうね。

【事務局（佐藤保健師）】

母子保健事業で去年 8 月～今年 3 月まで 8 ヶ月間、妊婦健診や 0～3 歳の乳幼児健診受診者、子育て支援センター利用者の約 700 人に向けて産前産後アンケートを実施した。集計結果によると、親族が周囲にいない転入世帯が非常に多いことがわかった。なお、回答者の子どもの人数は、5 割が 1 人、4 割が 2 人、1 割が 3 人以上であった。また、就労状況の項目においては、就労中、子どもが小さいので休職中、復職を希望して

いるが9割近くとなり、子どもが小さいうちから働きたいと希望するライフスタイルを考えているご家族が多いということが分かった。わたしが市役所に勤めて20年目になるが、20年前は出生数480人くらいだったのが、とうとう300人ぐらいになってきている。子育て世帯の母数自体は減っているが就労を希望する方が非常に増えていること、子どもが小さいうちから保育を希望する家庭が増えている気がする。

【横地委員】

保育園の代表として出席している。計画の振り返りではなくなるが、今の保育の現状をお伝えする。保育課にきた部長や課長も感じていると思うが、アンケート結果から0歳児からの保育希望が増えているとのことだったが、実際は減っている。わたしの園でも21人0歳児の枠があるが、満員ではない。他の施設もそうになっている。ママ、パパたちの心の変化とか、そういうものがすごく色々多様化しているのではないかなと、ここ数年わたしは感じている。今のアンケートからみるものと、保育現場の現状を考えるとちょっと離れているかなと感じる。

【小関委員】

P.4に「企業主導型保育施設は市外の施設の利用者も含めた」とあるが市外には何か所あるのか。また、この施設は一般の人が入れる枠は少ないのかなと思っているが、その辺のことを教えていただけたらと思う。

【事務局（市川保育課長）】

手持ち資料にないため市外の施設数については、この場で回答できない。

【横地委員】事務局に代わって市内の企業主導型保育施設について説明。

市内の施設は、ココカラデザイン保育園山本メディカルひでまり園とLaLaLand逗子の2箇所。企業主導型保育施設の管轄は内閣府で、この子ども・子育て計画のなかには数字として載せていない。市が主導で計画するものではなく内閣府とのやりとりで企業がつくる保育園なので、その企業で働く方のお子さんを預かり、割合はわからないが例えば20人の定員だったら、10人は地域のなかで保育を必要とする人を受け入れる。入園にあたって市の基準の審査は必要なく、定員枠の範囲で入園が可能。なお、その企業で働く方のお子さんは何の審査もなく入園できる。計画のなかの数字では読みきれないところが正直ある。事務局からだとヤクルトさんの市内の保育施設は、地域の方を受け入れていないと思うので、企業内保育施設といって、企業主導型保育施設ではなく計画にも載っていない。なお、通常の保育施設は開所に1年、2年前から計画するが、企業主導型保育施設は5月に7月から開所しますという直近の連絡で開所できるという形態の施設である。

【市川（悟）委員】

企業プラス一般の方が入れる施設が、企業主導型保育施設という理解でよろしいか。

【横地委員】

はい。色んな形態の保育施設ができたということである。

【市川（悟）委員】

コロナによって事業が出来なかったという説明があったが、具体的にはどのような例があるかご紹介いただきたい。

【事務局（佐藤保健師）】

わたしの管轄している事業でわかるところから説明する。P.9（3）妊婦に対する健康診査に関しては、各医療機関で実施するのでコロナの影響はない。実績の件数が減っている要因は、妊婦自体の母数が減っていることと、妊娠中の転入が多かったことが考えられる。例えば安定期に入ってから転入の場合、受診券を市内で利用する回数が少なくなるため、件数は減る。P.10（4）乳児家庭全戸訪問事業に関しては、コロナの最盛期は、訪問を拒否される方が非常に多かったと聞いている。わたしが昨年度異動してきた際も、職員の感染状況が分からないので陰性証明を持ってきて欲しいと言われてたり、何m以上近づかないで欲しい、ベランダからだったら子どもをみて良い等、様々な希望があった。どうしても社会的に訪問を拒否される方が多かった。また健診や複数人数を集めて話す事業、飲食をする事業は中止している。逗子市は池子の保健センターで集団健診を実施しているが健診の受診率、教室の参加率、また講座関係は基本的に中止となっていたので、実施の数自体が減っているということと、健診の参加者は少なかったかなと感じている。

【事務局（福井教育部担当部長）】

P.14～P.17 など各事業の「③4年度の実施状況・反省点・問題点など」のところでコロナによる影響を記載している。（資料に沿って説明。）

【渡部委員】

コロナのことで大変だったと思うが、なかなかお家に行くのが難しかったりするとお母さん方も精神的に不安定になられる方が多い時期だったのではと思う。そうすると何かしらの接点が必要だと感じる。例えばオンラインの zoom でやりとりするとか、そういう試みも市としては可能で、今後もコロナが続いていくと思うが、そういう方をオンラインで対応する等の検討しているのか。

【事務局（佐藤保健師）】

コロナが2類だとしたらオンラインで相談事業を実施したいなと思っていたが、5類に変わったので今のところ実施しない方向でいる。ただ先ほどの話でお伝えしたとおり、世帯構成やお母さんが孤立しやすい等、状況がすごく変わっているところがあるので、今までの集団で実施する教室は行い易いが、参加しにくい方が少なくはないなと思っている。そのため個別スタイルを重視しようかなと考えている。例えば母乳授乳相談を週一回、市役所で面接しているが、それ以外に子ども栄養相談や、妊婦栄養相談を週一で管理栄養士に来てもらうようにした。あとは栄養相談の枠を使って保健師と一緒に管理栄養士が訪問する等、そういった形で個別対応できるようなスタイルを増やすことを検討している。今の家族形態がみんなハッピーな家族団らんのお家ばかりではなく母子家庭、父子家庭、ご家族が亡くなられたお家など様々な世帯があるので、みんなハッピーな方しか来ていないような妊婦さんの教室へは参加しにくい人がいると感じていた。そのため、オンラインの相談については、考えながらやろうと思う。メールでの相談は現在も実施している。

【渡部委員】

5類になっても国の制度として変わっただけで、コロナの病気自体は同じだと思うので、その辺も考慮した上でお母さんの気持ちを汲み取ってもらえると有りがたいなと思った。

【小関委員】

感想も含めてとなるが、色々と説明いただいたなかで、コロナという状況のなか市で工夫をし、前向きに努力をされたなと全体的に感じた。P.21（13）多様な集団活動事業の利用支援を行う事業は、令和4年度から

の助成事業とあり、「HP に事業について掲載し」とあるが、HP を見たが非常に探しにくかった。この事業に対しての説明と、今後どういう形にしていくのかを教えていただけたらと思う。

【事務局（市川保育課長）】

対象となる施設は、現状逗子市ではないと把握している。近隣では鎌倉市、横須賀市、横浜市等に対象となる施設がある。その多くはインターナショナルの学校や、モンテッソーリ教育、シュタイナー教育を実施している施設がわたしが調べたなかでは多い。逗子市内から、市外のそういった施設に通われている方もいるので、その方たちに対する補助というのが、今後対応していきたい。HP がわかりづらいというご指摘は、持ち帰り改善する。

【議題】（１）逗子市子ども・子育て支援事業計画事業進行管理に関する意見聴取等について

① 逗子市子ども・子育て支援事業計画事業進行管理表

【寶川議長】

事務局より説明願う。

（事前配布資料④）逗子市子ども・子育て支援事業計画【事業進行管理表】の「子育てネットワーク構築事業」について事務局より説明。（説明省略）以下、意見聴取等。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。

【横山委員】

わたしは、子育て情報誌「陽だまり」を制作しているスタッフの1名でもある。そこで子育てポータルサイトえがおのQRコードを毎回「陽だまり」の冊子の下に掲載していて、読者の方が携帯からでもサイトを閲覧できるように工夫もしているが、やはり読み手の層も変わってきていて、えがおは文章が多く読み応えがあるものになっていて読むのも楽しいが、気軽なインスタグラム等のSNSが発達してきて、もっと短く文章をまとめて、端的に読んでいきたいとか、文字が少なくてもいいから、どんどん情報を吸収していった、あとは自分でツールを駆使して調べていく等、様々なスタイルがでてきている。陽だまりでも今は冊子にしているものを、インスタグラムで情報発信していくのはどうかという案もでている。ただ、市が絡むと、載せるからにはちゃんとした情報を皆さまに提供したいし、その情報が安全な情報なのか、施設側に確認をとっているのか等をチェックし確認した上で発信していくことになるので、リアルタイムに良いと思った情報をすぐに発信するのが難しいと感じている。そのため陽だまり制作スタッフでも、どういうふうに今後情報発信していくのが良いのか考えているところだ。ポータルサイトのアクセス数が前年度と比較して同等とあるが、これを上げていくとなると、「情報の発信方法の工夫が必要」と記載があるのはそのとおりだなと、読者の目線としても思う。文章量であったり、文章のアップの仕方を工夫していくことが大事なのかなと思った。ただ、陽だまりの冊子でこだわっているのは、ネットだけではなく、お母さんたちが作っているのだなという、手作り感で安心するという紙媒体の良さも大切にしていきたいので、うまくミックス出来ればと思う。情報を求めているお母さんたちはわたしの周りにもいて、それは子育てしているお子さんの年齢が上がってもなにかしら情報をキャッチして、子どもと一緒に市の楽しいイベントに参加して行きたいと話す方は

たくさんいる。そのような方たちがスムーズに情報をキャッチできるような仕組みが出来ているとすごくいいと思う。市内の掲示板など、みんな写真を撮って帰って見たりしていて、情報が色んな所にあるとすごく分かりづらいので一つのところに集約してもいいのかなと話したりもしている。そのような意見も参考にいただければと思う。

【寶川議長】

ご意見・ご質問なければ次の事業の説明を事務局より願う。

（事前配布資料④）逗子市子ども・子育て支援事業計画【事業進行管理表】の「体験学習施設講座等事業」について事務局より説明。（説明省略）以下、意見聴取等。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見・ご質問はないか。

【横山委員】

こちらの対象講座は、主に未就学児以上の年齢を対象にした講座が多いのか。

【事務局（中川担当課長）】

はい。事業の対象が市民及び児童青少年なので、小学生以上の対象講座が多くなる。

【横山委員】

よくほっとスペースに行く道中に壁に貼ってあるチラシをみている。すごく楽しそうなイベントをやっていると思うが、対象年齢が小学生からだ、小さい子は参加できないのだなと思って。ほっとスペースをよく使う方のなかには、小学生以上のお子さんがある方もいるが、乳幼児や未就学児のお子さんのみの方も多いので、未就学児対象の方向けの講座がもっとあってもいいのかなと思った。市で主催しているミュージックデイのようなイベントは年齢関係なく出入りできるので、入りやすく興味を持ってみてくれる方がいるのではと思う。

【事務局（中川担当課長）】

ミュージックデイは、来所した方が楽器演奏を聴いたり、簡単に身体を動かす程度の楽器を鳴らすというようなイベントである。どうしてもワークショップに参加するには、ある程度年齢のいった子どもが対象になってしまう。ご指摘のあった音楽を聴いたり、身体を動かすというような講座はできるように今後考えていきたいと思う。

【事務局（佐藤保健師）】

小学校に入学してすぐに、第一運動公園や体験学習施設をいきなり使いだすというのは難しいと思うので、母子保健事業でも妊婦さんの教室や、子どもの発達の相談事業を今年度から体験学習施設で行うようにしている。未就学のときからこの施設を知って、あ、この公園気持ちいいなとか、大きい声で喋っても大丈夫だなとか、わかっていただき、そのまま年齢が上がっても継続して利用していくことで、利用が増えるような仕組みを作って充実させていきたいと思う。

【市川（悟）委員】

事務局からも小さいころから利用するという話があったように、わたしは先日初めて親子ひろばというグループに参加した。主に未就学児を連れのお母さんが色々苦労されて、平日の昼間交流されているのを目の当たりにした。お母さんたちも体験学習施設がどうなっているのかということで参加している方がかなりいた。これはいい取り組みだなという思いでわたしも参加していた。小さいうちから体験学習施設を利用できる取り組みを実施するということを、新たなこととして検討していったらどうかと感じた。

【事務局（中川担当課長）】

お話しいただいた親子ひろばは、逗子市育児サークル連絡協議会が主催で令和5年2月に体験学習施設で実施した。元々10月ごろを予定していたが、施設がワクチン会場となってしまったので延期となりようやく開催できた。多くのお子さんが参加したと聞いている。そういったことも踏まえて今後考えていきたいと思う。

【寶川議長】

ご意見・ご質問なければ次の事業の説明を事務局より願う。

（事前配布資料④）逗子市子ども・子育て支援事業計画【事業進行管理表】の「子育て支援センター運営事業」について事務局より説明。（説明省略）以下、意見聴取等。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見・ご質問はないか。

意見等なし。

【寶川議長】

ご意見・ご質問なければ次の事業の説明を事務局より願う。

（事前配布資料④）逗子市子ども・子育て支援事業計画【事業進行管理表】の「妊産婦・乳児訪問事業」について事務局より説明。（説明省略）以下、意見聴取等。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。なければ私から。〈目標【2022年度】に対する評価〉、進捗状況の2行目に「市役所での面談や」とあるが、これは4か月健診前に面談できたということか。

【事務局（佐藤保健師）】

コロナの影響と、共働きで家が汚いのでなどの理由から、訪問より、お仕事帰りに市役所で面談を希望される方がいた。市役所のプレイルームで子どもを遊ばせながら面談したりするスタイルもある。市民の方のご希望で家ではなく、そういうケースもある。

【寶川議長】

それが4か月の健診前に行われているということか。

【事務局（佐藤保健師）】

はい。

【寶川議長】

ご意見・ご質問なければ次の事業の説明を事務局より願う。

(事前配布資料④) 逗子市子ども・子育て支援事業計画【事業進行管理表】の「子ども相談室運営事業」について事務局より説明。(説明省略) 以下、意見聴取等。

【横山委員】

こういった児童虐待の問題や、どうしたらいいかと思ったときに相談できるような窓口や対応している機関は、市のHPから見ることができるのか。

【事務局(佐藤保健師)】

こども相談室については、お配りした「ずし 子育て情報誌」にも載っているのと、資料の〈2022年度進捗状況〉の実施結果に記載したように「逗子市公式ユーチューブ『こども相談室』」を公開しているのでぜひ見ていただきたい。市のアピールとして逗子市公式ユーチューブというものがあり、母子保健のユーチューブのラインナップもアップしている。こども相談室のご案内も3分の動画がある。子どもがそこを見たときに、最後に相談先の連絡先や地図を紹介している動画になっている。それ以外にチラシや名刺を作っている。わざわざ子どもがHPにアクセスしないし、パソコンを1人で多用して欲しくもないので、市役所の5階に相談できる人がいるよということが徐々に浸透していったら良いなと思っている。スマホの使い方や、ゲームをずっとしてしまう等の様々な問題に対して昨年度から啓発や研修などを実施している。

【寶川委員】

鎌倉三浦地域児童相談所所長の新納委員から、虐待等最近の状況などお話しいただければと思う。

【新納委員】

本当に児童虐待の問題は、お子さんに対してのダメージと言いますかそういったものが、長きにわたって残る事例も多くある。横山委員がおっしゃたように、なにか心配だなと思ったときに、逗子市だと子ども相談室に連絡するとのことだが、そのほかに児童相談所でもいいですし、全国共通ダイヤルの「189」というものがある。スマホでも連絡可能で、連絡すると所管する児童相談所へつながる仕組みになっている。例えば逗子市市内で連絡すれば、鎌倉三浦地域児童相談所につながる。逗子市在住の方でも、藤沢市で連絡をすると藤沢所轄の児童相談所につながる。また、LINE相談も受け付けていて、最近利用者が増えている。友達登録をしてメッセージを送ると専門の相談員とやりとりができる。そのなかで心配な事があれば、児童相談所へ連絡がくる仕組みになっている。親御さんや地域の方の相談以外にも、お子さん本人からの相談が多くなっている状況である。児童虐待は親がこういうことをしたら虐待になりますというものであるが、本来はお子さん本人がこういった困り感があるかということを受け止めていくのが一番大切なことかなと思っている。そのため、子どもたちへの周知は非常に大事だなと思っている。相談を受けたあとは、事案にもよるが市役所やお子さんが所属する保育園や幼稚園、学校と連携しながら対応をとっていく。そういった意味でも、資料にでている要保護児童対策ネットワーク会議(通称:要対協)を中心にした会議は大事なものである。

【横地委員】

資料中「反省点・問題点」のなかで、「予防的な関わりが十分できていなかった」とあり、わたしも子育て支援課と連携をとり対応することがあるが、事例が発生してから連携がほとんど。100%かもしれない。今

ここで言うべきじゃないと思い控えていたが、妊産婦・乳児訪問事業の目的に「産後までの一貫した相談」とあり、その次の健診、そして子ども相談室までいかないまでの早期発見、発見というと保護者の方たちが敬遠してしまうので、早期相談、早期関わりが大切なのではと思う。保護者の方もそうですし、子育て支援センターや体験学習施設等、どこでもいいのでどこかでその親子が関わっていれば、関係機関との他愛もない会話のなかでキャッチできるので、予防的な関わりが十分出来なかったという反省点に対して、その辺りのことを次の計画で表現できると委員皆さまの意見も違ってくるかなと思う。

【事務局（佐藤保健師）】

横地委員のおっしゃるとおりで、予防的な関わりは様々なパターンがある。子ども相談で関わっていると昼夜逆転しているお子さんが多く、所属の学校に行く時間に起きられていない例がある。そういった例からみると、もっと乳幼児期から生活時間を学童期に合わせるように市として全体に協力できるとお子さんの小1プロブレム等の問題が発生しにくいと思っている。また、こども電話相談では、春や、休み明けになると毎日何本か電話がきて、お子さんが学校行きたがらない等の相談を単発で受ける。その場合には、相談から1か月、2か月経過したところに連絡をいれてアフターフォローをし、継続してモニタリングしたいと思っている。しかし、リスクが高いケースが非常に多くそちらを優先しているため、現状はそのような対応ができていない。今後支援を充実していきたいと思っている。

【寶川議長】

ご意見・ご質問なければ次の事業の説明を事務局より願う。

（事前配布資料④）逗子市子ども・子育て支援事業計画【事業進行管理表】の「ファミリーサポートセンター運営事業」について事務局より説明。（説明省略）以下、意見聴取等。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。

事務局より、発言求める。

議長の承認を得て、令和5年5月19日までに提出の意見表の記載方法について説明。

（事前配布資料 ⑤ 評価ランクの基準 資料2～資料2-3

⑦ 事業進行管理表の意見提案の視点 資料3

⑧ 資料 「令和5年度第1回「逗子市子ども・子育て会議」について」を参照）

【議題】（1）逗子市子ども・子育て支援事業計画事業進行管理に関する意見聴取等について

② 逗子市子ども・子育て支援事業計画（個別計画信仰管理総括表2）

【寶川議長】

事務局より説明願う。

（当日差し替え資料）個別計画進行管理総括表2について事務局より説明。（説明省略）

意見がある場合は、5月19日までに意見表の提出を依頼。

【議題】（１）逗子市子ども・子育て支援事業計画事業進行管理に関する意見聴取等について

③ 逗子市子ども・子育て支援事業計画（個別計画信仰管理総括表１）

【寶川議長】

事務局より説明願う。

（当日差し替え資料）個別計画進行管理総括表１について事務局より説明。（説明省略）

意見がある場合は、５月１９日までに意見表の提出を依頼。

【議題】（２）令和５年度子ども・子育て会議年間スケジュールについて

【寶川議長】

事務局より説明願う。

（当日配布資料）令和５年度スケジュール（案）を基に事務局より説明。（説明省略）以下、質疑応答。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。

【市川（悟）委員】

会議開催にあたって、曜日だけは決めておこうとする考えがあるが、いかがか。

【事務局（鈴木係長）】

現時点で、曜日を決定しておく予定はない。もし委員の皆さまの希望の曜日があり、出席がしやすいようであれば設定したい。開催日は、会長と事務局の予定をすり合わせ、候補日をいくつかお示しする。

【事務局（市川保育課長）】

来年度から久木小学校の学童施設が、改修工事を予定している。それに伴い６月開催予定の第２回会議か、別の機会を設けて学童施設に関して、部屋の配置等、委員の皆さまにご意見を伺いたいと思う。意見を伺う時期を６月５日（月）～６月９日（金）の間で検討している。また、詳細の資料は今後お示しさせていただく。なお、開催方法は皆さまにお集まりいただく方法のほかに、zoom や書面開催とするか検討し、詳細が決まり次第ご連絡する。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。

【市川（悟）委員】

以前議題としてあがった、沼間小学校区の学童施設と同様のことを議論するのか。

【事務局（市川保育課長）】

今回の久木小学校の学童は、小学校の改修も一緒にやるので、他の複合施設もいくつか入る予定である。そのなかで、学童に関するスペースについては保育課で取りまとめることになっている。その部分の意見を皆さまにお伺いする予定である。

【渡邊委員】

議題内容とは異なるが、配布資料について、ホチキス止めしている資料に更に個別資料をクリップ止めしてあったりしたため、資料が見つげづかった。会議の進行順に一冊にまとめるなどしていただくと探しやすいので検討いただければと思う。

【事務局（中川担当課長）】

次回以降、検討する。

【市川（悟）委員】

6月5日（月）～6月9日（金）の間の日程調整はしないのか。

【事務局（市川保育課長）】

会場の調整がまだなので、追ってご連絡させていただく。

【寶川議長】

ご意見ご質問がなければ進行する。

【議題】（3）その他

【寶川議長】

事務局より説明願う。

四宮企画課長より、「JR 東逗子駅前用地活用事業 基本構想」について説明。以下、質疑応答。

【寶川議長】

事務局の説明にご意見ご質問はないか。

【横山委員】

率直な意見として、逗子駅近くに住む市民としては、桜山にある子育て支援センターが行き易いので、東逗子へ移転してしまうのか、という印象。ただ、図書館沼間分室や福祉会館など様々な施設が複合施設としてまとまって、更に今の広場も生かしつつという話も踏まえると、子育て支援センターだけを目的に行くのではなく、他にも色んな施設があるから行ってみようと思うきっかけにもなる。また、今まで東逗子に住む方は、これまで子育て支援センターへは桜山まで足を運んでいたということもあるので、魅力的な施設がこの計画のなかで盛り込まれていくと足を運ぶと思うので、この計画はすごく大事だと思う。今後ワークショップも開かれるとのことだが、市民の声もぜひ聞いていただきたい。

【四宮企画課長】

公共施設の移転となると、これまで施設に近かった方が遠くなってしまうという問題がどうしても生じることは承知している。できるだけ魅力的な施設を整備する、ということを前提に考えている。なお、検討段階ではあるが、図書館などの複合施設のなかで、テレワークができるスペース等を機能としていれていこうという議論がある。例えばお子さん連れでいらっしゃって、仕事やご自身の時間を確保できるような施設を目指すことも考えている。足を運んでいただけるような、魅力的な施設構成となるよう検討していくのでご意見いただければと思う。

【渡部委員】

図書館等はイメージが沸くが、福祉会館はどのような機能の施設なのか。

【四宮企画課長】

福祉に関する様々な事業を行っている社会福祉協議会という団体が指定管理者として運営している。例えば生活困窮など福祉的な相談を受け付けている。コロナの時期に、福祉的な相談件数がかなり増えたこと、現在の施設が不便な場所で、建物自体が古いこともあり、もっと訪れやすい場所に移転することの意義について、議会等でも指摘を受けている。そのため、東逗子駅前への移転を考えている。

【渡部委員】

相談の場所ということか。

【四宮企画課長】

はい。東部地域包括支援センターについても、介護に関することから子育てに関することまで総合的に相談できる機能をもっている。他にも、例えば現在コミュニティセンターの会議室で行っているような介護予防のための軽い運動等、気軽に立ち寄ることができる施設として、訪れる方の福祉的なニーズに応えられる拠点も併せて設ける予定である。

【小関委員】

移転となると影響が出る方もいるという話しがでていた。駅の近くになるということだが、逗子市市内は割と車でないと行きづらい場所もある。今後詳細を提示していくなかで、アクセスの方法についてもご提案いただくといいのかなと思った。

【四宮企画課長】

公共施設なので、必要な駐車場は備える予定である。子育て支援センターを移転する議論のなかで、現在の桜山のマイナス面として、大きな地震がくると1.2Mくらいまで津波の被害が想定される場所にあるということがあげられる。東逗子に移転すると津波の被害が想定されない。そういった観点も、移転のひとつの目的である。

【寶川議長】

ご意見ご質問が出尽くしたようなので、議事を終了し、進行を事務局に返す。

閉会 以上により議事を終了し、令和5年度第1回逗子市子ども・子育て会議を閉会した。

10 署名

議事の経過及び結果を明確にするためこの会議録を作成し、会長及び議事録署名人は次に署名する。

会長

会議録署名人

会議録署名人
